紀州本宮湯峰薬王山東光寺の
霊場に扶桑第一の温泉あり薬師
如来の佛躰ハ湯のあかもつて自然と
出来たりいまへハ御胸の中より温泉
湧出しけり御胸にその痕あり脇立
日光月光十二神将ハ弘法大師の御作
なり此温泉ハ往古小栗判官といふ人
毒酒に傷られしがこの温泉に浴する一七日にて
篤病然癒病抜ミるうちカを試さんとて
其のときさけふ石大石へ手あとあり
それなりこの石を小栗のちからいしと
称ぶ又小栗温泉浴の日藁葉まで
髪を結ぶ束ねを棄し所今に至る
まで毎年自然と稲を生ずれども不蒔
の稲と号く湯の上より一の方二丁
右ら道のかたはらにあり今まつり
の稲とちからいしを図して法人に
示めすものなり

まかずのいね

小栗ちからいし